

A-standard

災害にも強い
「よき隣人」のいる
マンション



テーマや課題を
決め、住民たちが
集う場をつくる

育児や防災など、テーマに沿ったワークショップやイベントを頻繁に開催。「ご近所さん」と交流する楽しみもあり、参加率は高い。



交流が自然に
生まれるような
共同スペース

A-standard渋谷桜丘の「コモン・スペース」はエントランスに直結し、居心地のよいソファが路地に置かれた縁台のような役割を果たす。

未来のために、
私たちに何が
できるか

Case

4

課題解決のために
つくる「適度なつながり」

ネイバーフッドデザイン

2011年の東日本大震災は、コミュニティの欠如による現代社会の危険性を浮き彫りにした。

しかし、しがらみの多いかつての

「ご近所付き合い」をすることも抵抗は大きい。

しがらみにもならず、孤独にもならない、

ちょうどよい近所つながりをつくるための事業

「ネイバーフッド(近隣)デザイン」が始まっている。

取材執筆／
脳坂敦史



Photo by Natori Kazuhisa

HITOTOWA INC.

荒昌史さん

プライバシーと
パブリック、
両方が尊重される
マンションを

集合住宅や街区における「近所付き合い」の新しい形を提案しているのが、HITOTOWA INC. (HITOTOWAは「人と和」の意)の荒昌史さんだ。それは古きよき「ご近所」へのノスタルジーではない。荒さんが提唱するのは、新たな関係性の構築を目指す「ネイバーフッドデザイン」である。「しがらみではない、でも孤独にもならない。そんな適度なつながりをつくる(＝デザインする)仕事だと思っています」

HITOTOWA INC.の事業は、コ

ミュニティづくりを意識した物件の開発や、管理のあり方の見直しといったコンサルティングが中心である。2013年に完成した集合住宅「A-standard」は、エントランス近くに居心地のよい「共同スペース」を配した。そこで防災や子育てなどをテーマに、たびたびワークショップやイベントを開催し、住民同士の自然な交流を促す。販促用のパンフレットでも「good neighbors (よき隣人)」になるためのきっかけづくりをお手伝いします」と謳った。プライバシー重視というイメージのある分譲マンションでは、異例の試みといえるかもしれない。「プライバシーとパブリックの両

近所付き合いの
本質は、
課題の解決にある

最近では、シェアハウスやソーシャルアパートメントなど、若い世代を中心に、個を重視しながらも、住まいに他者とのつながりを求めるニーズが高まっている。また、共通の趣味をテーマに据えた物件

もある。けれども、荒さんの意図は少し違うところにあるようだ。「近所付き合いの一番の本質は、災害時の対策や環境負荷の軽減など、課題の解決にあると思います。もちろん、人とつながること自体が楽しいのですが、それは近所じやなくてもいい。でも、有事の場合、いざというときに助け合えるか、あるいは、ものをシェアして、いかにして環境への負荷を軽減するかといった課題解決のためには、距離的な近さが重要です」

実際に「A-standard」の入居者からも、「災害があったときに頼れる人ができてよかった」といった感想が多く寄せられている。

2010年には「無縁社会」などという言葉もつくられ、翌年の東日本大震災後は「絆」がキーワードとなった。コミュニティや

ご近所の欠如は、不安の原因や乗り越えるべき課題にまでなっていると見える。荒さんが「ネイバーフッドデザイン」を事業の中心に据えたきっかけのひとつも、やはり2011年の大震災だった。

「もともと大手住宅デベロッパーでCSRの仕事をしており、孤独死などの問題も起きている時代はどう集合住宅をつくるかを考えたとき、コミュニティが重要と考えようになりました。また、2005年から環境教育を行うNPOを運営しているのですが、例えば畑のある暮らしをしようといっても、地縁やご近所がないと長続きしないんです。そんななか東日本大震災を経験し、人のつながりが重要であると身をもって実感したんです」

事業の原点をそう話す荒さんに

とって、マンションにおける「ご近所づくり」は、この社会が抱えるさまざまな問題の解決に必要な「コミュニティの再生」と直接つながっている。

「もちろん、自治会や民生委員、NPOといったものの役割も重要。地域のお祭りやイベントといった切り口もあるでしょう。けれども行政は財政が逼迫していますし、自治会や商店会も高齢化が深刻です。若い世代も多い分譲マンションの住民が、積極的に地域コミュニティの担い手となり、これまでハードのみをつくってきた住宅開発業者が、人付き合いというソフトまで含めた「コミュニティ・デベロップメント」に関わるとしたら、その意味は大きいと思うし、私はその可能性に賭けたいと思っています」

近所付き合いの一番の本質は、
課題の解決にあると思います。
有事の場合、いざというときに
助け合えるかは、
距離的な近さが重要です。

Ara Masafumi



Photo by Natori Kazuhisa